学校だより　　学校スローガン「自ら考え、動く有中生！」

有家中だより No4

令和７年　６月１６日
南島原市立有家中学校
校長　本　多　洋　二

市中総体球技・武道大会終わる！！

去る６月７日・８日の両日、市中総体球技・武道大会が開催されました。今年度は、土・日開催となり、ソフトテニス競技以外は、すべての競技において１日開催でした。有家中生徒の皆は、県大会出場を目指し、それぞれの競技で、精一杯頑張っていました。当日は、悔し涙を流した生徒、うれし涙を流した生徒等、たくさんのドラマがありました。結果は次のとおりです。

＜球技・武道大会＞
◎団体
〇バレーボール女子　初戦惜敗
〇ソフトテニス男子　優勝（県大会出場）
〇ソフトテニス女子　優勝（県大会出場）
〇バスケットボール女子　予選敗退
〇剣道女子　２位
◎個人
〇ソフトテニス男子
　田中・原田ペア　ベスト４
〇ソフトテニス女子
　本多・白石ペア　優　勝（県大会出場）
　山田・中村ペア　準優勝（県大会出場）
〇剣道男子
　森﨑　駿　　優　勝（県大会出場）
　田中　渉　　準優勝（県大会出場）
　髙木　大輔　　ベスト４
〇剣道女子
　松尾　瞳来　　準優勝（県大会出場）
　森﨑　翼　　ベスト４
〇卓球（男女）　予選リーグ惜敗

※その他、県大会に出場する団体・個人
　〇バレーボール男子
　〇剣道男子団体
　〇水　泳　北村　陽都　100m 背泳ぎ
　〇空手道　荒木　久充佳・小嶺　璃央
　〇硬式テニス　白石　煌明

活躍！生徒会役員

去る５月３０日（金）、令和７年度生徒総会を開催しました。各学級から、色々な意見が出て、それに対して生徒会役員が答弁をする行事です。小さな意見が集まって大きな渦となり、組織全体を変えていくという点で、大切な会です。生徒たちは、２時間弱、真剣に取り組んでいました。

＜うまく進行する議長２人と答弁する生活部委員長＞

＜答弁の準備をする生徒会役員＞

<男女アベック優勝を果たした有中ソフトテニス部>

＜県大会に出場する剣道部と男子バレーボール部＞

今後の主な行事予定

◎6月

・３０日（月）～7月５日（土）
有家っ子の心を見つめる教育週間
３０日（月）１校時　教頭講話（体育館）

◎7月

・１日（火）職場体験学習（２年生）
・2日（水）職場体験学習（２年生）
民生委員さんとの懇談会
・3日（木）道徳授業参観（１４：２５～）
学年 PTA（１５：２５～）
・5 日（土）学級対抗 PTA 大会(18：00～)
・１１日（金）全校専門委員会
・１７日（木）大掃除・生徒集会
・１８日（金）１学期終業式
県中総体激励会
県吹奏楽コンクール激励会
・１９日（土）～夏季休業日（夏休み）
・２９日（火）～8月６日（水）
〇二者面談（２年生）
〇三者面談（３年生）

本校生徒が出場する県中総体等の予定

◎7月

・１９日（土）２０日（日）水泳競技（長崎市）
・２２日（火）～２４日（木）バレーボール競技
（諫早市、大村市）
・２７日（日）県吹奏楽コンクール県央地区大会
（諫早文化会館）
・２６日（土）～２８日（月）
〇ソフトテニス競技男女（かきどまり庭球場）
〇剣道競技男女（長崎県立総合体育館）
〇硬式テニス競技（佐世保総合グラウンド）
〇空手競技（長崎県立武道場）

ブレークコーナー

自分の考えや人の受け売りです。 気軽にお読みください。

自　尊　感　情

「自尊感情」というのは、自分の性格や特徴について、弱さや欠点も含めて、これでいいと思える気持ちです。

国際比較調査では、日本の子どもたちの自尊感情が、諸外国と比較して、低いことが指摘されています。「自尊感情」が低い子どもは、自分自身に自信がありませんから、精神的に不安定になりやすいし、人間関係に様々な問題を起こしやすくなります。以前、ある講演会で、皆さんよくご存知の「ドラえもん」の登場人物を例にして、「自尊感情」について話をされていましたので紹介します。のび太のお母さんは、のび太のことをとても愛しています。それは間違いありません。親ならその気持ちは十分伝わってきます。しかしながら、普段、のび太にかける言葉は、「宿題はしたの」「どうしてこんな点しかとれないの」「はやくしなさい」など、否定的なことしか言いません。

＜左下からの続き＞

日本の子どもの「自尊感情」の低さは、のび太くんのママタイプが多いからだと考えられます。パパも同様です。

一方、ドラえもんは、「だいじょうぶだよ」「のび太くん、できるよ」と励まします。しずかちゃんも同様です。のび太くんのお母さんは、のび太のことをとても愛しているし、大事に思っているのに、結果的にはのび太の自尊感情を下げているのです。

のび太くんのママのように自尊感情を下げさせないためにはどうしたらいいでしょうか。

それは、結果だけに目を向けないということです。ほめ方について、結果だけで評価すると、できたら〇、できなければ×になって、子どもは努力を評価してもらえないことになります。それよりも、過程や経過に目を向け、「頑張っていたね」というようなほめ方をすれば、子どもは見ていてくれたという気持ちになります。

また、「やさしいね」とか「そのままでいいよ」というありのままを評価することは安心を与える、「私はうれしい」「ありがとう」などのメッセージは愛情を感じるということです。「次はできるさ」「期待しているよ」という励ましや期待は、やる気が出るということも講演の中で言われていました。

ただ、ほめることを中心にすることは大事なことですが、叱るということも必要です。個性には伸ばした方がよい個性と伸ばしてはいけない個性があります。それを選別し、選定し、剪定しなければなりません。

だから、叱ることは必ず必要なことですが、問題は叱り方です。「叱ることは考えさせること」だと思います。どんな叱り方が適切か次号で紹介します。